



五分だより

長崎県立鶴南特別支援学校五島分校



鶴南ごとう発表会



11月2日(土)のごとう発表会は悪天候のため休校となり、残念ながら中止となりましたが、6日(水)に中学部、8日(金)に小学部が練習の成果を発表しました。

小学部1・2年生は「まほうのはこ」の劇で、ダンスや歌、楽器など、日頃の学習の成果を発表しました。1年生は初めての舞台発表でしたが、9月から練習を始め、それぞれ頑張ることを決め、当日まで練習を重ねてきました。

小学部3・4・5年生は「SHOW Tube TV チャレンジ企画!」平仮名や片仮名、漢字、ダンスなど日頃の様々な学習内容にチャレンジしました。舞台発表以外にも、背景画の作成や、小道具作りなどにも一生懸命に取り組みました。

中学部は、「平和の計算式～実に仲が良い～」と題して、「平和・仲間」の大切さについて発表しました。平和学習や総合的な学習の時間、音楽で学習したことを取り入れて、楽しく発表することができました。繰り返し練習をしたり、みんなで準備したりと、ごとう発表会に向けて取り組んだことを、今後の学校生活に生かしてほしいと思います。

高等部は、「身近にある多様性」をテーマに、『たしかなこと』(小田和正)の合唱、「総合的な探究の時間の学習発表」、「『The Greatest Show』の音楽に合わせた身体表現」の3つの発表を行いました。これまで、せりふ練習を何度も重ねたり、目線や指先までこだわって身体表現の練習を行ったり、発声の基礎練習を繰り返しながら合唱を行ったりしてきました。海陽・鶴南合同文化祭では、その成果を見事発揮し、発表することができました。

開催にあたっては、日時の変更等ご迷惑をおかけすることも多々ございましたが、準備から本番まで、ご理解・ご協力いただき本当にありがとうございました。

小学部1・2年生「まほうのはこ」



小学部3・4・5年生「SHOW Tube TV チャレンジ企画!」



中学部「平和の計算式～実に仲が良い～」



中学部バザー



高等部「続・This is me The Greatest Show ～ぬくもり～」



作品展

小中学部の廊下に、2日(土)～15日(金)まで児童生徒が授業で作った作品を展示しました。





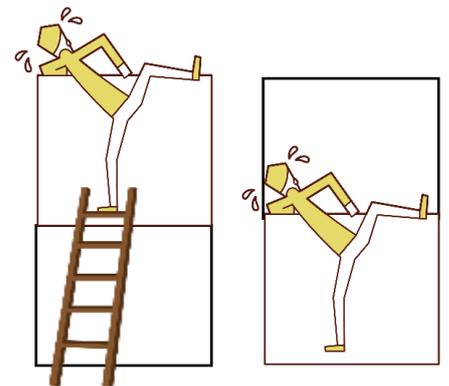
はしご使いますか

小中学部主事 友永 光幸

季節外れの台風による大雨のため、今年の「ごとう発表会」は中止になりました。一生懸命に練習を積み重ねてきた子どもたちの姿を見ていたので、本当に残念でした。しかし、小中学部では、平日に部ごとではありますが発表の機会を設けることができました。集中力を切らさず、思い切り発表ができていました。また、高等部は、五島海陽高校との合同文化祭での発表とともに、「ごとう発表会」のリハーサルでも、圧巻の演技を見せてくれました。後輩たちに「すごいな」「あんなふうになりたいな」という憧れを抱かせてくれました。

さて、突然ですが、今回は、「はしご」について書かせていただきます。イラストで壁を登ろうとしている人を示しました。左の絵の人は、ゴールの半分ほどの高さまではしごを使って登ってきました。後は手掛かりがあるので登りやすそうですね。一方で、右の絵の人には、はしごはありませんので、わずかな手掛かりを使って一生懸命よじ登っていかなくてはなりません。では、皆さんはどうやって壁を登りますか。

私は、はしご「あり」で登りたいです。背が低くて腕や足の力に自信のない私には、はしごは大きな助けになります。仮に、私にバレーボール選手並みのジャンプ力があって壁に手をかけてひょいと越えられるならば、「はしごはいらないよ」と言えます。それでも、筋肉痛で足がうまく上がらないときには、「はしごがあったらな」と言うかもしれません。まとめると、下のような感じになります。



登る壁(目標)は同じでも、はしごを使うと挑戦しやすくなる。

体や心の調子を見て、はしごの高さを変えたり使わないで登ったりするのもあり。

五島に来て約8か月、子どもたち、保護者の皆様、先生方、地域の方々のほとんどが、私が困ったり疲れていたりしたときに、さっとはしごを持ってきてくれました。「大丈夫ですか」「ここはやっときますよ」など、優しい言葉とともに用意していただいたはしごのおかげで壁を乗り越えている毎日です。ありがとうございます。

一方で、特別支援学校の教員としての私を振り返ってみたとき、こんなにタイミングよくちょうどよいはしごを用意できているのか反省します。ときには、低すぎるはしごで「この壁を登って!」と働き掛けてみたり、余裕でジャンプできる壁にもはしごをかけて「じょうず!」などと言ってしまったりしていないかなと。

はしごが必要かどうかは、周囲の人だけで決めるものではなく、壁を登ろうとしている本人の気持ちも大切だと実感しています。これからも、甘えでもずるでもなく、楽々登れてつまらないものでもなく、ちょうどよい挑戦ができるはしごを子どもたち、保護者の皆様、同僚の方々と探していきたいです。

